

# 宇都宮農業協同組合 第24回通常総代会



## 第24回通常総代会

### 「持続可能な農業」・ 「地域共生の未来づくり」の貢献へ

J Aは5月26日、第24回通常総代会を宇都宮市のホテル東日本宇都宮で開きました。総代540人のうち、515人（書面提出455人）が出席。吉澤タミさん（平石支所）と安濟正一さん（上河内支所）が議長に選任され、「令和3年度事業報告および剰余金処分案の承認について」など全議案が、慎重審議の結果、すべて原案通りに承認されました。



【第24回通常総代会 提出議案】	
【報告事項】	令和3年度貸借対照表、損益計算書、注記表および附属明細書の内容ならびに会計監査人の監査報告および監事の監査報告について
【決議事項】	令和3年度事業報告および剰余金処分案の承認について
第2号議案	持続可能な農業・地域共生の未来づくり3か年計画の設定について
第3号議案	令和4年度事業計画の設定について
第4号議案	當農經濟センターの再編計画について
第5号議案	定款の一部変更について
第6号議案	令和4年度理事および監事の報酬について

## 令和3年度の事業報告

た。

「創造的自己改革の実践」の最終年度として①農業者の所得増大・農業生産の拡大へのさらなる挑戦②地域の活性化への貢献③経営・財務基盤の強化などを柱として事業に取り組み、組合員・地域住民の皆さまの理解醸成を進めてまいりました。一方で、新型コロナウイルスの影響を受けた外食産業の需要減退などにより、農畜産物の消費が低迷しました。特に主食用米は米価が大きく下落して依然低迷を続けており、JAの事業を取り巻く環境は依然厳しいものとなつております。米の計画的生産については、市町再生協議会が示した「作付参考値(面積)」に基づき「需要に応じた生産」に積極的に取り組みました。また、アクティブ・メンバーシップの強化を目的に、組合員の要望や意見を聞いたり、常勤理事や職員が組合員のお宅に訪問したりするなど、対話を進めています。さらに「農業者の所得向上、農業生産の拡大」に向け「當農振興・担い手育成積立金」を活用することにより、新規品目導入、経営規模の拡大を提案し、担い手育成など農業者への支援を実施しました。

### 【販売事業】

米については依然として消費の低迷は改善せず、販売環境は非常に

厳しい状況で持越し在庫の増加が続いているいます。一方で、3年産米における積極的な作付転換により、飼料用米は大幅に増加し、米全体の取扱高は43億円になりました。園芸は主要園芸品目のうち、ニラ、トマトが天候不順や業務需要の低迷により取扱高は減少したものの、イチゴ、ナシは増加したことから79億円になりました。肉牛はコロナ禍の影響を大きく受けた前年に比べて需要が回復しつつあるため、前年より単価高となり、出荷頭数は増加しました。畜産物全体で取扱高は21億円になりました。

**【共済事業】**  
共済事業は、LAを中心とした3Q訪問活動を通じ、組合員一人一人のニーズに合った保障の提案を実施した結果、新契約高は355億円、保有高は6,249億円となりました。

**【総合収支】**  
事業利益 1億97百万円(計画比3億38百万円増加)  
経常利益 6億9百万円(計画比4億53百万円増加)  
当期剰余金 4億47百万円(計画比3億24百万円増加)  
自己資本比率 (剰余金処分後) 17・32%

次世代や地域共生社会の構成員とともに、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、経営の健全性を確保し、役割を發揮している姿

3.協同組合としての役割発揮  
次世代や地域共生社会の構成員とともに、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、経営の健全性を確保し、役割を発揮している姿

地域農業を確立し、農業者の所得増大を支える姿  
2.豊かで暮らしやすい地域共生社会の実現  
総合事業を通じて地域の生活インフラ機能の一翼を担い、多様な関係者とともに協同の力で豊かでくらしやすい地域共生社会の実現に貢献している姿

**【購買事業】**  
購買事業は、生産資材については大型規格農薬の普及などを実施し、低利用者・未利用者への推進にも努めた結果、購買事業全体の取扱高は69億円となりました。

**【金融事業】**  
金融事業では、各種キャンペーンを展開したことにより、貯金残高は2,967億円となりました。また、組合員・利用者の資産形成に資本信託の提案を実施しました。貸出金については住宅ローンキャッシュの実施や農業融資専任担当者を設置し、資金ニーズへの対応強化を進め、貸出金残高は前年比40億円増加し、626億円となりまし

**持続可能な農業・地域共生の未来づくり3か年計画の設定について**

**基本構想(JAうつのみやの目指す姿)**

1.持続可能な農業の実現  
消費者の信頼や実需者のニーズに応え、安全で安心な国産農畜産物

を安定的に供給できる持続可能な地域農業を確立し、農業者の所得増大を支える姿  
2.豊かで暮らしやすい地域共生社会の実現  
総合事業を通じて地域の生活インフラ機能の一翼を担い、多様な関係者とともに協同の力で豊かでくらしやすい地域共生社会の実現に貢献している姿

3.協同組合としての役割発揮  
次世代や地域共生社会の構成員とともに、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、経営の健全性を確保し、役割を発揮している姿

地域農業を確立し、農業者の所得増大を支える姿  
2.豊かで暮らしやすい地域共生社会の実現  
総合事業を通じて地域の生活インフラ機能の一翼を担い、多様な関係者とともに協同の力で豊かでくらしやすい地域共生社会の実現に貢献している姿

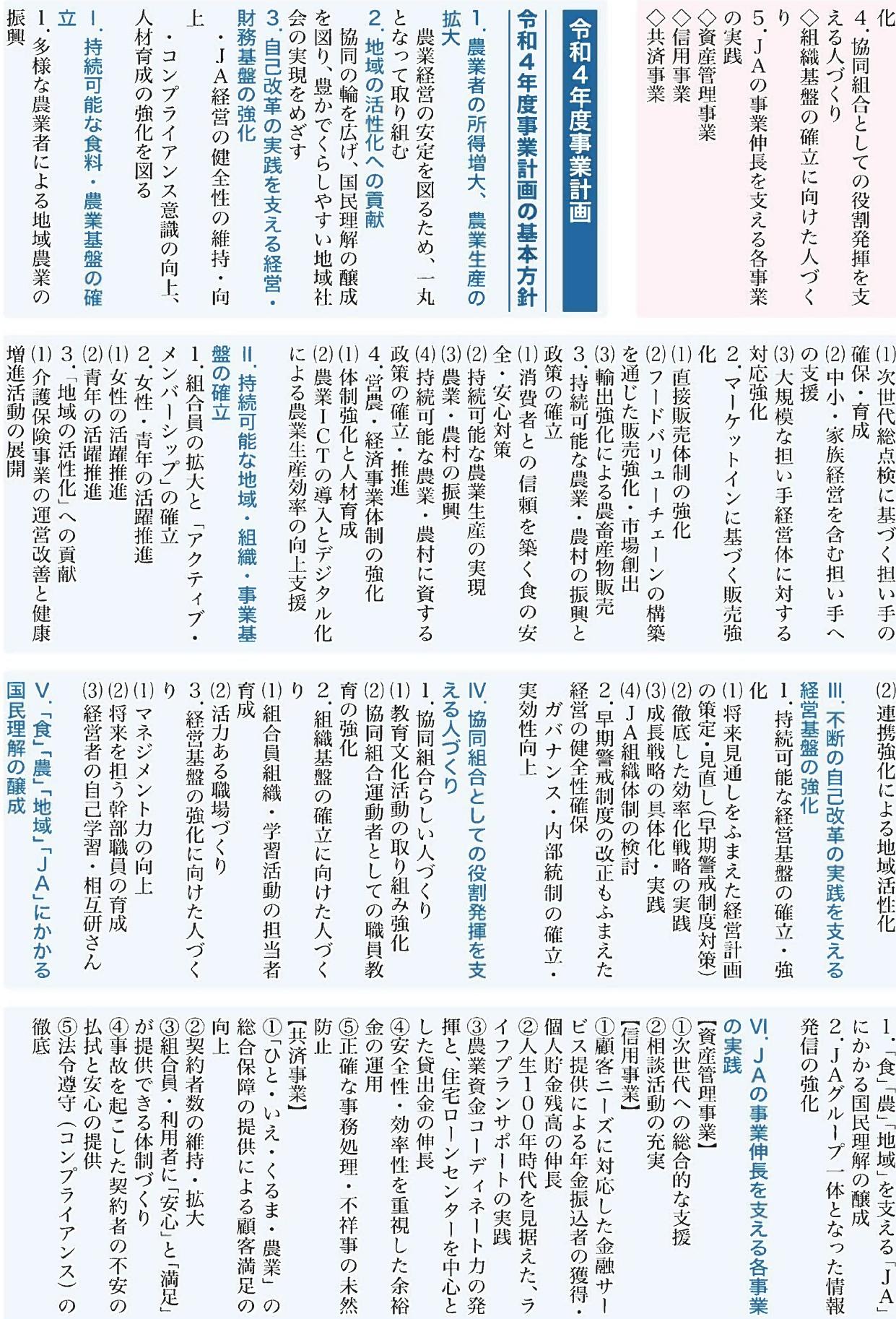
3.協同組合としての役割発揮  
次世代や地域共生社会の構成員とともに、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、経営の健全性を確保し、役割を発揮している姿

地域農業を確立し、農業者の所得増大を支える姿  
2.豊かで暮らしやすい地域共生社会の実現  
総合事業を通じて地域の生活インフラ機能の一翼を担い、多様な関係者とともに協同の力で豊かでくらしやすい地域共生社会の実現に貢献している姿

**3か年計画のポイント(重点取組・意見反映)**

1.持続可能な食料・農業基盤の確立  
合員皆さまのご理解と協同の力の結集により、年度計画を達成することができます。深く感謝を申し上げ、事業概況の報告とします。

◇持続可能な農業・農村の振興と政策の確立  
◇営農・経済事業体制の強化  
2.持続可能な地域・組織・事業基盤の確立  
◇組合員の拡大と「アクティブ・メンバー・シップ」の確立  
3.不断の自己改革の実践を支える経営基盤の確立・強化  
◇持続可能な経営基盤の確立・強化



## 2022年度の目標を確認 共済推進目標必達進発式

8



目標達成に向けて行われた  
ガンバロウ三唱（支所長・JAの部）



ガンバロウ三唱（共済係長・SSの部）

**JA**は4月5、6日、令和4年度共済推進目標必達進発式を開催。LA（ライフアドバイザー）とSS（スマイルソーター）が令和4年度の活動目標などを確認しました。

5日に宇都宮市上大曽町のホテル東日本宇都宮で支所長・LAの部を行い、JA役職員ら77人が出席。進発式では各支所のLAが「組合員・利用者の生活が少しでも豊かで安心できるものになるよう、寄り添う活動をしていきたい」などと決意を表明しました。6日には宇都宮市戸祭元町のJA本所で共済係長・SSの部を開き、JA役職員ら51人が出席。各支所のスマイルソーターが「目標の達成に向けて窓口業務や推進活動に努めたい」など決意を表明しました。また、式に先立ち、令和3年度JAうつのみや優秀LA表彰が行われました。表彰者は以下の通りです。

◇令和3年度優秀LA表彰=石塚佑太（上三川）、鈴木史穂（南部）、遠藤克真（城山）、菊池哲也（北部）、生沼義裕（豊郷）、田崎恵（平石）、青木大智（南部）

## 佐藤専務が新入職員に講話 令和4年度新入職員研修会

4



自己紹介をする新入職員

**今** 和4年度新入職員19人は4月2日から28日にかけて、宇都宮市戸祭元町のJA本所で「令和4年度新入職員研修会」を受講しました。7日の研修会では、佐藤俊伸専務からJAの職員としての心構えなどの講話がありました。

講話の中で佐藤専務は「まずは皆さんのことを知りたい」と、自己紹介やJAのイメージなどを新入職員に求めました。新入職員からは「幅広い事業を行っている」「おいしい野菜を扱っている」「地域の方との関わりがある」など、さまざまなイメージが出ました。

また、佐藤専務はJAについて「組合員が出資し、組合員が利用し、組合員が運営する組織。組合員の要望に応えられるよう働いてほしい」と説明しました。さらに、職員としてこれだけは押さえてほしい点として「あいさつ」と「相手に興味を持つこと」を挙げました。

新入職員はメモを取るなど、熱心に講話を聴きました。



## 本年度の活動を協議 みどり会支部長・事務局合同会議



みどり会支部長・事務局合同会議で  
あいさつする所会長



**J A** 女性組織みどり会は4月12日、宇都宮市戸祭元町のJA本所でみどり会支部長・事務局合同会議を開催し、役員や関係者33人が出席しました。

所洋子会長は「コロナ禍で大変な中、活動をしていただいている。やはり女性は強いと感じた。今後も皆さんの協力のもと、活動していきたい」と抱負を語りました。見形繁常務はコロナ禍でのペットボトルキャップ回収運動や子ども食堂調理ボランティアなどの活動に感謝を述べ「これからの農業を支えるようなみどり会であってほしい」とあいさつしました。

会議では令和4年度のみどり会活動について説明。活動については感染状況を見ながら検討することが決まりました。

また、「JA栃木女性会ごはんを食べて・作って写真コンテスト」の受賞者表彰が行われ、奨励賞を受賞した雀宮支部長の篠崎純子さんに賞状と記念品が贈られました。

## JA女性会横川支部の佐藤和子さんが発表 JA女性組織活動体験発表会



優秀賞を受賞した佐藤さん

**J A** うつのみや女性会は4月25日、宇都宮市平出工業団地のJAビル教育センターでJA栃木女性会主催の「令和4年度第72回通常総会」に参加しました。各JAの女性会員、JA職員が出席し、JAうつのみやからは9人が出席しました。

総会では「女性組織活性化方策2022」の設定、令和4年度事業計画などを審議しました。

総会終了後は「JA女性組織活動体験発表会」が行われ、横川支部の佐藤和子さんが「みどり会入ってよかったです横川支部」という題で発表。夫婦二

人三脚で過ごした農業人生のことや、同支部での楽しかった活動とその思い出などを発表しました。審査では「支部の雰囲気が分かる発表で、内容がドラマチックだった。また、しっかりと練習して臨んだことが伝わった」と講評され、優秀賞を受賞しました。





## ボリュームのあるメニューで お腹いっぱいに (4月25日)



盛り付けをする石嶋支部長ら



机に並ぶ今回のメニュー 5品



## 直売所でバラとマスクを配布 (5月8日)

JAは5月8日、「母の日」に合わせて、宇都宮市砂田町のJAグリーンインターパークの利用者先着「88」人に、バラ1人1本とマスク1セットを配布しました。

直売所でのバラの配布はJA初の取り組みです。今回の取り組みはJAうつのみやバラ専門部協力のもと、地元農産物の認知度向上を図り、消費拡大を目指すことを目的としています。バラのほか、JAグループが進める国産・地元産農畜産物の安全・安心をPRする運動「みんなのよい食プロジェクト」のチラシをマスクと一緒に配布しました。

JAグリーンインターパークで行われた  
バラとマスクの配布



配布されたバラとマスク



組合員の皆さんからの地域の話題や活動報告をお待ちしております。写真を添えてお送りください。  
※紙面の都合上、掲載されない場合もありますのでご了承願います。詳しくは総務課組合員広報係まで。

# 管内インフォメーション

## 宇都宮市が生産緑地制度を導入 生産緑地制度に関する説明会



熱心に説明を聞く参加者

**J**A 資産管理課は3月16日から3月29日にかけて、宇都宮市の5地区の市民センターで「生産緑地制度に関する説明会」を開きました。

宇都宮市は2月1日から栃木県内で初めて生産緑地制度を導入しました。生産緑地制度は、指定要件を満たす都市農地を所有者の申し出により生産緑地に定めるもので、農地の適正な保全を目的としています。説明会では宇都宮市都市整備部都市整備課の担当者が講師を務め、生産緑地地区の指定要件や固定資産税、都市計画税が見直されることなどを説明。質疑応答では、生産緑地の指定要件についてなど参加者から活発な意見や質問が上がりました。

## 21年度事業報告を審議 アグリうつのみや 2021年度定時株主総会



**株** 式会社JAアグリうつのみやは4月13日、宇都宮市中里町の同社で第9期（2021年度）定時株主総会を開き、同社役員、JAの役職員ら12人が出席しました。同社はJA初の出資型農業生産法人で、今年で設立から10年となります。「組合員の農地を守り将来の担い手への橋渡しをする」ことを基本理念として、耕作放棄地の解消や農地の保全を目的に事業を進めています。

21年度事業報告では水稻や麦・大豆の作付け実績などを報告。22年度事業計画では、農地の集約化や省力化技術の利用拡大を図り、経営基盤の安定・向上に向けて全力を尽くすことを確認しました。また、水位センサー、自動給水装置を使った水稻栽培研究の結果を検証し、水管管理の低コスト化が期待できることを報告。水管管理に掛かる時間や労力の削減に向けて、22年度も継続して検証します。

同社の横松久夫会長は「地域組合員の負託に応え、担い手の育成や生産コストの低減・省力化に積極的に取り組んでいく」とあいさつしました。



審議する出席者たち

## 最優秀賞を受賞 JA自動車共済損害調査サービス優秀組合表彰



表彰式を行った関係者

**J**A うつのみやは4月18日、宇都宮市塙田のJA共済連栃木ビルで2021年度JA自動車共済損害調査サービス優秀組合表彰を受賞しました。同表彰は、自動車損害調査サービスを通じて契約者から高い評価を得たJAに対してJA共済連栃木から贈られます。JAうつのみやは昨年に引き続き2年連続で最優秀賞を受賞しました。表彰式ではJAうつのみやを代表して横松久夫組合長がJA共済連栃木の田村登志郎本部長から表彰状を授与されました。JAうつのみやの担当者は「積極的に現場急行を実施している。その結果が高い評価につながっているのでは」と振り返りました。横松組合長は「昨年に引き続いての受賞で、大変うれしく思う。今後も利用者の皆さんに満足していただくために取り組んでいきたい」とあいさつしました。

# 水稻



6月に入ると、分げつ発生が旺盛になり、茎数が急激に増加します。この時期に水管理で過剰な分げつの発生を抑えることが大切です。

## 間断かん水と中干し

苗の活着後は、浅水管理で分げつの発生を促してきましたが、必要茎数（目標9俵なら20株／平方メートル）のとき、1株18本に達したら直ちに間断かん水に入りましょう。このときの茎数の数え方は、分けつ茎が頭を出したら一本と數えますので、田面は少し寂しく見えるくらいが目安です。

開始時期は、一般に田植え後30～35日とされていますが、生育を見て開始時期が遅れないようにしましょう。稻わらなどの多いほ場では早い時期からガスの発生が多くなります。そのようなときは一時水を落としガス抜きをします。間断かん水することで根の健康が保たれ無効茎の発生が抑えられます。湿田や葉色の濃く茎数の多いほ場では中干しを行い、乾田や葉色が淡く茎数の少ないほ場では施肥時期まで間断かん水を続けます。

## いもち病の防除

近年、県内ほ場からQOー剤耐性イネいもち病菌の発生が確認されました。

耐性菌の発生・拡大防止のため、イネいもち病防除にQOー剤を含む薬剤の使用は避けましょう。また、本田防除は、葉いもちに対しても初発前あるいは発生初期に穂いもちに対しても薬剤の使用適期に散布してください。

## 稻こうじ病の防除

前年発生したほ場では防除を行いましょう。稻こうじ病に最も効果のある銅剤の防除適期は出穗10～21日前です。農薬の使用方法を守り散布を実施しましょう。薬剤については、表1を参考にしてください。農産物検査規格では、稻

こうじが玄米へ混入した場合、規格外となりますので注意が必要です。

## 縞葉枯病の防除

縞葉枯病の発生の多い地域で罹病性品種を作付けするほ場は、箱施用剤と併せて本田防除による体系的な防除が重要です。早植は5月末～7月上旬、普通植は田植時～8月初めをカバーできるように防除しましょう。

# 大豆



「里のほほえみ」の品種特性に応じた栽培管理により、品質・生産量の向上を図ります。

## 連作回避

大豆の連作は土壌病害虫を増加させるとともに地力を低下させ、小粒化、収量・品質の低下をもたらします。このため、連作はできるだけ避け、やむを得ず連作をする場合は2年までとし、3年以上の連作はしないようにしましょう。

## 排水対策の徹底

畑作物の大豆は、発芽時だけでなく、生育期間中も湿害に弱い作物です。転換畑に付するときは地表水を速やかに排出する作業と地下水位を低くするための作業が必要です。

排水不良のほ場は、周溝やほ場内に明

渠を設けるなどの排水対策を積極的に行いましょう。また、本暗渠と弾丸暗渠や心土破碎を組み合わせることでも排水性が改善されます。平坦地では圃地化する事により、地下水位の上昇を抑えます。

畠立て同時播種は播種後の湿害を回避する省力的方法として有効です。

## 土づくり

大豆の吸収する窒素は根粒菌からの供給が一番多く、次いで土壌中、肥料と続きます。稻わらや麦稈の全量鍬込みや完熟堆肥、ようりん、苦土重焼燐などの施用により地力の低下を防ぎましょう。

## 播種期と播種量

「里のほほえみ」の播種適期は6月15日～7月5日です。播種が早すぎると倒伏や病害虫の発生が多く、遅すぎると生育不良になるので注意が必要です。特に麦跡は播種が遅れないようにします。播種量は10kg／当たり4.0～5.5kgを基準とし、播種時期が遅くなるに従い株間を狭くします。播種前に種子消毒を必ず行いましょう。



©みんなのよい食プロジェクト

**みどり会富屋支部活動について**

コロナ禍になり3度目の新年度を迎えたみどり会富屋支部は、2年間活動を自粛していたため、ほとんど活動ができていません。今年度は感染症対策をしっかりとり、少しずつ会員の方たちと活動ができればいいと考えております。

寄せ植え教室や健康教室、手芸教室をはじめ、2年間休んでいたしめ飾り作りも今年度は工夫してできればいいなと思っております。

安心して会員の方達が集まり、楽しく・賑やかに行事を行える年にしたいと考えております。

制作した寄せ植え

**みどり会上三川支部活動について**

みどり会上三川支部は新型コロナウイルス感染症感染防止を踏まえ、少しずつ活動を再開しました。間隔を広く開け、フラワーアレンジメントを行いました。年明けには会員の指導のもと、みを作りにチャレンジしました。密を避けるため、自宅で大豆を煮て漬すまでの工程を終わらせ持参してもらい、時短で作業を行うことができました。出来上がるのが待ち遠しいです。



フラワーアレンジメント教室に参加した上三川支部のメンバー

今まで一番の楽しみだった旅行に行くことができないため、花見を開催しました。鬼怒川の公園の広いところで気分転換にもなり楽しいひと時になりました。皆さんもぜひ一緒に参加してみませんか？楽しいですよ！！

# ワンプレートレシピ One plate recipe

アスパラガスの  
豚肉巻き揚げ出し風



## 材料(4人分)

豚ばら肉	200g
アスパラガス	8本
天ぷら粉(市販)	適宜
薄力粉	適宜
サラダ油	適宜
大根おろし	大さじ3
おろしショウガ	小さじ1
かい割れダイコン	適宜
水	50ml
しょうゆ	小さじ2
みりん	小さじ2
だしのもと	小さじ1/2
天つゆ	

## 作り方

- ① 天ぷら粉は水を入れ溶いておく。
- ② アスパラガスの下半分の堅い皮をピーラーでむき、4本ずつまとめて豚ばら肉で巻き(写真右)、薄力粉を薄く付ける。
- ③ ②を半分に切り①の天ぷら衣にくぐらせ、180度に熱した油で3~4分ほど揚げる。
- ④ ③を器に盛り付け上に大根おろし、おろしショウガをのせ、鍋で沸かした天つゆをかけ、かい割れダイコンを添えて出来上がり。

茨城県笠間市にある  
天晴(旧キッチン晴人)  
オーナーシェフ  
ながいともかず  
永井智一



## 今月の直売所情報

好評につき今年も販売中です!!  
とても甘くてジューシー。香も強く、本当に美味しいと評判です!

### JAHAGAの直送メロン

対象店舗: JAグリーンインターパーク・南河内グリーンセンター・えきの市場



特売 南河内  
グリーンセンター  
第3木金曜は  
特売デー

### お米の特売日

JAうつのみや お薦めのみやおとめ(コシヒカリ)  
をお買い得価格にて販売します!!

JAグリーンインターパーク  
直売所 毎月第3日曜日(6/19)

& JAグリーンかみかわち  
直売所 每月3の付く日(6/8, 18, 28)

南河内グリーンセンター  
生産者さん募集!!

詳しくは南河内営農経済センター  
TEL: 0285-48-2215  
営農課 森田・上野まで

# 上三川宮農 経済センター

だより

各支所の活動や地域の情報を届けします!



## 国登録有形文化財 生沼家住宅



外観



内観

生沼家は、初代は元禄11(1698)年生まれと記録される約300年の歴史を持つ上三川町の商家です。約3,000平方㍍の敷地内には、国登録有形文化財となっている店舗および主屋・土蔵のほか、昭和30年代に東京より移築された茶室、大谷石作りの石蔵、庭園が残されています。

生沼家の何代目が商業活動を始めたのかは定かではないですが、明治の初めに旧上三川村で地主総代になっていたことから、江戸時代後期にはすでに地位を確立していたものと考えられています。

生沼家は肥料商・質屋業などで財を成す一方、早い段階で電話の設置や電力の導入などに尽力し、町の近代化に大きな影響を与えました。生沼家に残された明治期の銅版画は、当時の生沼家の様子をよく描いています。

生沼家17代目当主の生沼権一郎氏(1848~1913)は肥料ほか複数の商業活動に営み、肥料商としては、従来からの搾粕、米糠、豆粕のほか、過リン酸などの化学肥料を販売していました。また、町内の生活困難の人々を助けることを目的に、生沼共済会を設立しました。

大正2(1913)年の国民新聞において、当時の産業組合中央会会長の平田東助氏は「河内郡上三川町に一箇の信用購買組合がある其の組長は生沼権一郎と称する同地の資産家で(中略)一箇の共済会を組織して町内の鳏寡孤独をして其窮に泣くからしむることに致たく(中略)同組合専務の田村某も曾て埼玉県農業技師を勤めた人で肥料などは自ら配合して組合員に渡すと云う有様で組合の成績も見るもの甚だ多く既に表彰せらるべき候補者の一に加って居る」という記述があり、農業の振興にも貢献した人物だったことがうかがえます。

各種お問い合わせはこちらへ

### 支所・センター電話番号

中央支所	028-633-3467	南河内支所	0285-48-2211
宝木出張所	028-622-6111	上三川支所	0285-55-1510
平石支所	028-661-4311	宇都宮北部農業経済センター	028-665-0550
南部支所	028-656-1020	宇都宮西部農業経済センター	028-658-6565
城山支所	028-652-0711	宇都宮南部農業経済センター	028-656-8484
北部支所	028-665-0003	宇都宮東部農業経済センター	028-660-3535
豊郷支所	028-624-8011	上河内農業経済センター	028-674-2164
清原支所	028-667-0151	河内農業経済センター	028-673-6911
姿川支所	028-658-6881	南河内農業経済センター	0285-48-2215
上河内支所	028-674-3333	上三川農業経済センター	0285-55-1511
河内支所	028-673-3135	住宅ローンセンター	028-622-7100

■ キャッシュカードの紛失・盗難  
フリーダイヤル 0120-082065

■ 夜間・土・日・祝祭日の自動車事故(24時間受付)  
事故受付センター フリーダイヤル 0120-258931

■ JA葬祭(24時間受付)  
アトラス宇都宮ホール 028-660-5555  
アトラスアミリーホール鶴田 028-633-9200  
アトラス上三川ホール 0285-55-1555

■ LPガス関係 灯油・軽油・A重油の配達  
フリーコール 0800-700-0085(通話無料)  
※緊急連絡先 028-633-0085